

2013(平成 25)年度「宇宙科学情報解析シンポジウム」プログラム

2014 年 2 月 14 日(金) 10:00-18:00
宇宙科学研究所・A 棟 1 階入札会議室

10:00-10:05 **開会の挨拶**
海老沢 研(宇宙科学研究所)

1. データ解析、データサイエンス (座長:海老沢 研)

10:05-10:20 **スーパー・ナイキスト周波数事象の解析**
柴橋 博資 (東大・理)

2. 衛星試験・運用、信号処理 (座長:海老沢 研)

10:20-10:35 **GSTOS コマンド計画検証ソフトウェアの開発**
西村 佳代子、松崎 恵一、宮野 喜和、宮澤 秀幸、福田 盛介、山田 隆弘、馬場 肇(宇宙科学研究所)

10:35-10:50 **Arduino 互換ミッション OBC 用のソフトウェア開発**
堀口 淳史・橋本 論・中澤 賢人・久保田 晃弘(多摩美術大学)

10:50-11:05 **スーパーハイビジョン(8K)を実現した超高速デジタル信号処理技術について**
佐野 道則(アストロデザイン株式会社)

11:05-11:10 **『どこでも運用システム』の開発状況 (第二報)**
永松 弘行(宇宙科学研究所)

3. データ処理 (座長:篠原 育)

11:10-11:25 **国際宇宙ステーション搭載超高層大気撮像観測ミッション ISS-IMAP のデータ処理**
齊藤 昭則 (京都大学)、山崎 敦 (JAXA/ISAS)、坂野井 健 (東北大学)、吉川 一郎 (東京大学)

11:25-11:40 **JEM-GLIMS ミッションにおけるデータ処理と今後の発展**
佐藤 光輝(北大), 牛尾 知雄, 森本 健志, 山崎 敦, 鈴木 睦

11:40-11:55 休憩

11:55-12:10 **あけぼの VLF 波動長期観測データ解析の現状と将来計画**

笠原 禎也、後藤 由貴、大池 悠太 (金沢大学)

12:10-12:25 **スーパーコンピュータを活用した高効率な地球観測データ処理の実現**

齋藤 紀男 (JAXA)

12:25-12:40 **GPUを使った Non-voigt 吸収線形計算の高速化**

眞子 直弘 (千葉大・CEReS)、鈴木 睦 (ISAS/JAXA)、佐野 琢己 (ISAS/JAXA)、
今井 弘二 (ISAS/JAXA)、尾関 博之 (東邦大)、光田 千紘 (富士通 FIP)、
塩谷 雅人 (京大・RISH)

12:40-12:55 **ALMA 用新高速データ解析ライブラリ Sakura の開発**

中里 剛 (国立天文台)

12:55-13:55 休憩

4. アーカイブ・アプリケーション開発

(座長: 山本 幸生)

13:55-14:10 **太陽地球系科学分野のデータ利用について: ERG サイエンスセンターの取り組みから**

桂華 邦裕(1)、三好 由純(1)、関 華奈子(1)、堀 智昭(1)、宮下 幸長(1)、小路 真史(1)、瀬川 朋紀(1)、田中 良昌(2)、篠原 育(3)、ERG サイエンスセンタータスクチーム、(1) 名古屋大学太陽地球環境研究所、(2) 国立極地研究所、(3) ISAS/JAXA

14:10-14:25 **月周回衛星「かぐや」のデータアーカイブおよび解析処理システム**

石原 吉明(JSPEC)・増田 宏一(JSPEC)・大嶽 久志(JSPEC)・晴山 慎 (聖マリアンナ医科大)・北條 勝己 (C-SODA)・館野 直樹 (宇宙フォーラム)・中村 良介 (産総研)

14:25-14:40 **かぐや搭載スペクトルプロファイラデータ分析のための地理情報システム～「月光」～**

林 洋平 1、小川 佳子 2、平田 成 2、寺菌 淳也 2、出村 裕英 2、松永 恒雄 3、山本 聡 3、大竹 真紀子 4、大嶽 久志 4

1 産総研、2 会津大、3 国環研、4 ISAS/JAXA

14:40-14:55 **DARTS/AKARI 全天マップ画像検索機能の開発**

吉野 彰 (宇宙科学研究所)、稲田 久里子、松崎 恵一、山内 千里

14:55-15:10 **STARS touch : 時系列衛星観測データ Web アプリ**

村田健史 (情報通信研究機構)

15:10-15:15 **動的 HTML を利用した分野横断研究へのアプローチ**

今井 弘二、海老沢 研(宇宙科学研究所)、眞子 直弘 (千葉大・CEReS)

15:15-15:20 全天 X 線監視装置「MAXI」のデータアーカイブの開発

中川友進(1)、海老沢研(1)、中平聡志(1)、上野史郎(1)、冨田洋(1)、木村公(1)、杉崎睦(2)、芹野素子(2)、三原建弘(2)、根來均(3)

(1) 宇宙航空研究開発機構、(2) 理化学研究所、(3) 日本大学

5. データ解析、データサイエンス

(座長:高木 亮治)

15:20-15:35 弾性体モデルによるデータ接続 (ステッチング)

栗田 光樹夫(京都大学)

15:35-15:50 オーロラの出現・形状の予測に向けたオーロラの観測画像の分類とデータベース化

田中 孝宗(九州大学)、佐藤 由佳、田中 良昌、池田 大輔

15:50-16:05 休憩

16:05-16:20 ビッグデータ分析手法を用いた宇宙天気予報アルゴリズムの開発

柴山 拓也(1)、磯部 洋明(1)、羽田 裕子(1)、村主 崇行(1)、柴田 一成(1)、根本 茂 (1,2)、駒崎 健二 (2)、(1) 京都大学、(2) 株式会社ブロードバンドタワー

16:20-16:35 超高層物理学分野におけるデータ集約型の第4の科学に関する調査

小山 幸伸(京都大学)

16:35-16:50 「あかり」アーカイブデータを用いた近赤外線面輝度スペクトルの成分分離

津村 耕司(1)、松浦周二(1)、松本敏雄(1,2)、左近樹(3)、和田武彦(1)、Pyo Jeonghyun(4)、田中昌宏(5)

(1)JAXA 宇宙科学研究所、(2)ASIAA、(3)東大、(4)KASI、(5)筑波大

6. データ可視化

(座長:久保田 晃弘)

16:50-17:05 Google Earth 用ボリューム可視化ソフトウェアVDVGEによる天体データの可視化

川原 慎太郎、杉山 徹、荒木 文明、高橋 桂子(海洋開発研究機構)

17:05-17:20 「はやぶさ」の軌跡の可視化 - 小惑星イトカワ接近～タッチダウン -

三浦 昭、山本 幸生、吉川 真(宇宙科学研究所)

7. アウトリーチ、プラネタリウム

(座長:三浦 昭)

17:20-17:35 デジタルドームシアターの国際的な動向と *Science of Large-scale Digital Immersive Media* の可能性について

木村かおる(科学技術館)

17:35-17:50 デジタルプラネタリウムにおける宇宙観測データの活用
—葛飾区郷土と天文の博物館のプラネタリウム番組制作を事例として—

井内 麻友美(葛飾区郷土と天文の博物館)

18:00～ 懇親会、総合研究棟(G棟) 3階オープンスペースにて

ポスター

1. 『どこでも運用システム』の開発状況 (第二報)

永松 弘行(宇宙科学研究所)

2. *Arduino* 互換ミッションOBC用のソフトウェア開発

堀口淳史・橋本 論・中澤賢人・久保田晃弘 (多摩美術大学)

3. 動的HTMLを利用した分野横断研究へのアプローチ

今井 弘二(宇宙科学研究所)

4. 全天X線監視装置「MAXI」のデータアーカイブの開発

中川 友進、海老沢 研(宇宙科学研究所)、MAXI アーカイブチーム

5. デジタル立体地球儀ダジック・アースによる地球科学・宇宙科学データの学 校・科学館での利用

齊藤 昭則 (京都大学)